

受理年月日	令和3年8月19日	所管委員会	教育こども委員会
番号	3年陳情第23号		
件名	防災教育及び防災訓練について		
陳情者	[Redacted]		
分割送付	なし		
要旨	<p>日本は世界屈指の災害大国であり、本市でも地震、風水害など様々な災害の危険性が指摘されています。例えば地震調査研究推進本部の主要活断層帯の長期評価において、本市直下を走る警固断層帯南東部では、30年以内に最大6%という高い確率でマグニチュード7.2の大地震が発生し、広い範囲で震度7の激震に襲われるおそれがあると評価されています。また、平成17年3月20日に発生した福岡県西方沖地震による影響を警固断層帯南東部が受けた可能性が指摘されており、かなり切迫した状況であると言えます。風水害に関しても、1828年のシーボルト台風や平成11年6月豪雨、平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月西日本豪雨のように福岡県内でも既に幾度となく大雨による甚大な被害が生じています。そのような中、学校教育機関等での防災教育が明らかに不十分であり、正しい防災訓練が行われず形骸化しています。</p> <p>具体例として、私が数年前に所属していた早良区内の中学校のクラスは火災の避難訓練の際に、火災が発生したと想定した部屋の前の廊下を通過して避難しました。あまりにさまざまな訓練に啞然とした覚えがあります。また、多くの学校では地震発生時には机の下に隠れるよう教わりますが、必ずしもそれが正しいとは限りません。家庭科室で調理しているとき、廊下にいるとき、体育館にいるとき、登下校中に地震が起きたらどうするべきか、そのような様々な状況を考慮した防災教育がなされていません。</p> <p>加えて、地震発生直後に校内放送を行い、避難を開始することが多いですが、実際に強震に襲われると停電や、放送設備が破壊されたりドアの枠が変形したりすることにより放送は不可能になります。実際の地震の際に実現困難なことを避難訓練に組み込んでも何の意味もありません。これらはまさに避難訓練が形骸化している証拠ではないでしょうか。</p> <p>災害大国において、大切な命を守るすべとなる防災教育の拡充は、災害が激甚化する今日において、人的被害を軽減するために極めて有効です。防災教育が徹底されれば若い世代が中心となって、地域の高齢者など災害弱者を巻き込みながら積極的に避難することにもつながると思います。実際、東日本大震災では釜石東中学校の生徒たちが率先して避難したことにより、まち全体で避難行動の連鎖が起き、大勢の人々が助かりました。</p> <p>よって、以下の事項について陳情します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小中高等学校において、避難情報や防災情報などの正しい意味や取るべき行動を学習し、様々な災害の特徴や地元の災害の歴史、リスクを映像資料なども使いながら学ぶというような防災学習の機会を1年間に少なくとも3回以上設けること。 2. 災害に詳しい専門家や、語り部の活動をしている被災者などを防災学習の講師として学校に呼び、講演をしてもらう機会を1年に1回以上は設けること。 3. 小中高等学校における避難訓練の実態調査と、防災上の観点から適切でないと考えられる訓練内容の改善を行うとともに、土砂災害や液状化現象、津波、家屋やブロック塀、電柱等の倒壊による避難経路の閉塞など、学校の立地環境に伴うリスクを考慮した避難訓練にすること。 4. ハザードマップの想定を超えた災害にも対応できるように常に最悪の状況を考慮した避難訓練にすること。 		

防災教育及び防災訓練に関する陳情書



令和3年8月19日

福岡市議会議長

伊藤嘉人様

請願者

氏名

年齢 17歳

【請願の趣旨】

日本は世界屈指の災害大国であり、福岡市でも地震、風水害など様々な災害の危険性が指摘されています。例えば地震本部の主要活断層帯の長期評価において、福岡市直下を走る警固断層帯南東部では、30年以内に最大6%という高い確率でM7.2の大地震が発生し、広い範囲で震度7の激震に襲われる恐れがあると評価されています。また、平成17年3月20日に発生した福岡県北西沖の地震（福岡県西方沖地震）による影響を警固断層帯南東部が受けた可能性が指摘されており、かなり切迫した状況であると言えます。

風水害に関しても、1828年のシーボルト台風や平成11年6月豪雨や平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）のように福岡県内でも既に幾度となく大雨による甚大な被害が生じています。そんな中、学校教育機関等での防災教育が明らかに不十分であり、正しい防災訓練が行われず形骸化しています。

具体例として私自身の体験を記載させていただきます。私が数年前に所属していた早良区内の中学校の私のクラスは火災の避難訓練の際に、火災が発生したと想定した部屋の前の廊下を通過させられ避難しました。あまりに杜撰な訓練に唖然とした覚えがあります。

また、多くの学校では「地震発生時には机の下に隠れなさい。」と教わりますが、必ずしもそれが正しいとは限りません。家庭科室で調理しているとき、廊下にいるとき、体育館にいるとき、登下校中に地震が起きたらどうするべきか。そのような様々な状況を考慮した防災教育がなされていません。

加えて地震発生直後に校内放送を行い避難を開始させることが多いですが、実際に強震に襲われると停電や放送設備が破壊されたりドアの枠が変形することにより放送は不可能になります。実際の地震の際に実現困難なことを避難訓練に組み込んでも何の意味もありません。これらはまさに避難訓練が形骸化している証拠ではないでしょうか。

災害大国において大切な命を守る術となる防災教育の拡充は、災害が激甚化する今日において、人的被害を軽減するために極めて有効です。防災教育が徹底されれば若い世代が中心となって、地域の高齢者など災害弱者を巻き込みながら積極的に避難することにもつながると思うのです。実際、東日本大震災では釜石東中学校の生徒達が率先して避難したことにより町全体で避難行動の連鎖が起き、大勢の人々が助かりました。

これらを踏まえて次項に示した事項を強く陳情致します。

【陳情事項】

- ① 小中高等学校において避難情報や防災情報などの正しい意味や取るべき行動を学習し、様々な災害の特徴や地元の災害の歴史、リスクを映像資料なども使いながら学ぶというような防災学習の機会を一年間に少なくとも3回以上は設けていただきたい。
- ② 災害に詳しい専門家の方や、語り部の活動をされている被災者の方などを防災学習の講師として学校にお呼びし、講演をしていただく機会を1年に1回以上は設けていただきたい。
- ③ 市内の小中高等学校における避難訓練の実態の調査と、防災上の観点から適切でないと考えられる訓練内容の改善、そして土砂災害、液状化現象や津波、家屋やブロック塀、電柱等の倒壊による避難経路の閉塞など学校の立地環境に伴うリスクを考慮した避難訓練にしていただくよう早急にお願いしたい。
- ④ ハザードマップの想定を超えた災害にも対応できるように常に最悪の状況を考慮した避難訓練にしていただきたい。

以上4点を前向きにご検討いただけますよう宜しくお願い致します。